銭湯のアカスリに行ったら大学の同じサークルの女の子がスタッフをしていておちんちん見られた・・・

大学3年の俺は、週末になると行ったことのない新しい銭湯を開拓していくのがマイブームだった。今日は大学から電車で30分ほど離れた場所で、近所の常連ばかりが来そうな静かな銭湯を見つけた。今日はアカスリを受けてみようかなと思った。プロのスタッフに全身を丁寧に擦ってもらうと、汗と皮脂がすっかり落ちて、肌がツルツルになる。俺はアカスリが好きで月一くらいでしてもらっていた。

男湯に入り、受付で予約したアカスリの部屋に入る。

薄いタオル一枚を股間に置いて、ベッドに横になる。するとスタッフがカーテンを開けて入ってくる気配がした。

「失礼します」

その声に、俺は思わず顔を上げた。

「……え？」

目の前に立っていたのは、大学の同じサークルの同期、中西美咲だった。黒のユニフォーム姿をしている。いつもは明るくてよく笑う彼女が、なぜかスタッフとして立っていた。

「あ……」

美咲も一瞬、目を見開いた。すぐに表情を整えようとするが、耳の先が少し赤くなっているのがわかった。

「……美咲？まさかここで会うとは」